■ 戦略経営研究会 151st ミーティング 議事録

日　時：2023年4月1日(土)　14:00－16:40
場　所：Zoom
テーマ：25 周年記念　若手ベンチャー応援企画！
　　東京と沖縄に住む外国人のお家で「まちなか留学」
　　～小中高生に身近なホームステイの機会を提供～
発表者：野中光さん（HelloWorld 株式会社 創業者／代表取締役 Co-CEO）
参加者：11 人（会社経営、コーポレート部門職、大学教員、会社員、FP、公務員、税理士、
　　NPO 法人理事長、行政書士、司法書士等）
目次：
１．自己紹介と起業のきっかけ
２．事業説明と国際交流、英語教育
３．まとめ

発表：
１．自己紹介と起業のきっかけ
　私は起業家でありつつ起業家を支援する立場でもあります。起業家の支援は沖縄市（コザ）で行っています。商店街の中の「Startup Lab Lagoon」というコワーキングスペースです。コザはベトナム戦争の頃、最も栄えていました。インドやフィリピンからも出稼ぎがきていました。その後は下り坂となっていました。6 年前、コワーキングスペースができた後、V 字回復しています。商店街に飲食店、ショップが入っていき、空き店舗がないぐらいです。「コト」をつくると人が集まります。人が来る仕組みをつくることが大切です。たとえば、イベントの企画です。年間 100 回以上開催しています。起業家や起業したい人が集まっています。3 年間で 200 名ほどです。現在、スタートアップ商店街として始動しています。九州にあるバルブ製造の大きな企業は、新事業の立上げは自社内では難しいとして、片道切符で 3 名の社員をコザへ送り込みました。新事業が生まれました。これはマインドセットが変わってことによります。大企業にとっても良い循環となりますので、他の企業もコザに関心を示しています。
　ゼロからイチをつくるのに関心があります。私の祖母は記憶力がすごくありました。そこで、祖母の記憶をもとに新聞をつくりました。その時に、いろいろなお話しを聴くことができました。子どもの頃の友だちのこと、戦争のこと、戦後、那覇で民宿をしていたことなどです。人生をストーリーとして残すことができました。祖母のお葬式で配ったところ、家族にとても喜ばれました。
　HELLOW WORLD のきっかけは、JICA 沖縄の食堂で外国人とお話したことです。その外国人は 3 か月、沖縄にいたけど、友だちができませんでした。そして、母国に帰っていきました。外国に来て、信頼できる友だちができかったことに、とても残念に思いました。私は高校の時に留

All Rights Reserved, 戦略経営研究会

学をして友だちができたのにです。また、留学は課題として理解していました。高校の時の留学について、周りからはお金がないからできないと羨ましがられました。データ上も、留学の希望者は40%ですが、実際の留学率は1.4%に過ぎません。

高校2年の時、カルフォルニアに留学しました。そこは、砂漠の中にある街でした。気温も50度近くまで上がることもあります。人がほとんどいないところです。留学前の英語の成績は200点中33点でした。先生には隠していました。先生が留学のことを知った時も、冗談だと思われました。留学して少し経つと夢も英語になりました。しかし、何を言っているかわからない程度でした。友だちに感謝英語力はないままに留学しましたが、留学先の友だちに支えらえて英語ができるようになりました。大学の時に東南アジアを旅行しました。ゲストハウスで近隣の現地の人とつながることができました。お金は持っていましたが、その人たちはお金を使わせてくれませんでした。これらの体験が、英語と交流のベースになっているようです。

外国人との交流イベントの企画し、とりあえず実行してみたことがあります。段ボールを集めて船をつくろうという企画です。つくってみたら、ほんとうに浮きました。そこから、子ども向けにできないかと発送しました。子どもに交流の機会を届けると、大人も変容します。子ども向けの多文化共生には意味があります。また、親は子どもにはお金を払います。

２．事業説明と国際交流、英語教育

起業家としては、「まちなか留学」と「まちなが留学基金」、世界の教室をつなぐ「WORLD CLASSLOOM」を行っています。まちなか留学は地域内の外国人宅にホームステイです。一緒に夕ご飯を食べたり、絵を描いたりします。映画を観て、ジェンガで遊んだりします。教会にも行ったりもします。体験した子どもの感想を聞くと、「ジェスチャーでコミュニケーションをとることができました」「わからない単語もあったけど、自分の実力ができた」などです。コロナ禍、海外に留学することが難しくなったことにより、「まちなか」も選択肢となりました。2023年3月末時点で、まちなか留学の導入実績は18都道府県、56の学校・教育委員会等を受け入れました。

WORLD CLASSLOOMは日本と世界の教室をつなぐ英語教育EdTechツールを活用しています。このコミュニケーションシステムを開発しました。海外の学生と交流し、プレゼンテーションを行います。自分で達成度がわかります。利用者の感想を聞くと、「交流は無理だと思っていたが、楽しくできた」「できるっていうことを学ぶ機会になり、夢が拡がった」「間違いを恐れず、どんどんできる」などです。WORLD CLASSLOOMの導入実績は、国内12自治体33校、海外20か国60校です。

活動実績を数字で見ると、2023年3月までに（見込み含む）、まちなか留学体験提供が3,042人（延べ人数）、国際交流プログラムが6,625人（延べ人数）、WORLD CLASSLOOM導入が約15,000人ですので、累計24,000人以上となります。利用者からは「国際交流や留学なんて私になんて無理だと思っていた。しかし、無理だと思っていたことができた」という声を聞きます。売上の推移をみると、2020年度売上高等は300万円でしたが、2021年度売上高等は3000万円となり、2022年度売上高等は1億3000万円を見込みます。HELLOW WORLDとWORLD CLASSLOOMの売

All Rights Reserved, 戦略経営研究会

上構成は半々です。組織規模は30名に拡大しました。この4月より新卒社員4名が入社します。もともと当社にて大学生インターンをしていました。ビジネスとソーシャルインパクトの両立ができています。また、まちなか留学基金は、所得などの問題に関係なくすべての子どもたちに留学体験を届けることを目的としています。現在までの寄付額は150万円、70名にまちなか留学の機会を提供しました。

当社は、公教育により、すべての生徒に海外短期留学同等の教育機会を保証することを目指しています。今までは、海外留学はごく一部の選抜者のみでした。これは文部科学省や教育委員会の予算に制約されているからでもあります。そこで、これからはすべての生徒に低コストでできる高度な英語教育の機会を提供していきます。WORLD CLASSLOOM で国際交流、デジタル主体で個別に実践型の英語学習と、まちなか留学を公教育で実現します。このことに賛同してくれる自治体と連携を進めています。また、令和5年度、内閣府沖縄総合事務局により、沖縄振興予算から「沖縄国際交流体験事業」が行われることになりました。沖縄在住の外国人家庭へ滞在するホームステイや日帰り交流といった国際交流体験事業の経費の一部を補助するというものです。行政の後押しもはじまりました。

学習指導要領の改定が行われ、英語教育の抜本的強化のイメージが提示されています。中学校では対話ができることを重視するとしています。また、「読む」中心から「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能すべてを指導することとしたり、講義型の授業中心から生徒主体型の実践ができるようにこととしたりへ変化しています。英語教育のボトルネックは英語が嫌いということです。その理由は英語ができないからです。英語ができない、だから嫌いという循環が生じています。当社の国際交流授業により、英語へのモチベーションを向上させ、主体的な学びを行うことの循環を公教育でも実現させることができます。

GIGA スクール構想で、学校現場への ICT 機器の普及は進みました。しかし、英語による国際交流にはほとんど活用されていません。この状況を変える必要があります。とはいえ、教員の平均時間外労働時間は月 96 時間とされています。WORLD CLASSLOOM は、国際交流を進めるだけでなく、教員の業務負担を軽減することもできます。たとえば、生徒の学習状況を点数として自動的に表示することができます。英語の授業で使われるようになってきています。WORLD CLASSLOOM の提供する国際交流により、アンケートによると「英語を学習の目的が明確になった」という回答が 90.1%となっています。高い教育効果を実現しています。英語が苦手な生徒の変容が大きいです。学習意欲・態度が前向きになっています。WORLD CLASSLOOM はオンラインの国際交流を今後も進めていきます。だからこそ、リアルの交流が重要と認識しています。

そこで、まちなか留学です。沖縄県には 120 か国の外国人が住んでいます。その方々とまちなか留学によりリアルの交流を行う機会を提供しています。しかし、これだけで本当に課題は解決できるのでしょうか？　所得格差は体験格差となります。この課題の解決のために、まちなか留学基金を立ち上げています。ホストファミリーから寄付をいただくこともあります。この寄付により無償で留学体験ができます。2023 年 1 月、あしなが育英会の子どもたち 15 名に体験をしてもらいました。4 月には、沖縄県の生活保護世帯の子どもたち 70 名に体験してもらうことになっています。「国際交流や留学なんて私には無理だと思っていた」子どもに機会を提

All Rights Reserved, 戦略経営研究会

供し自信をもってもらっています。すべての子どもたちに留学体験の機会を提供したいです。

３．まとめ

まちなか留学のホストファミリーは民間の大使館です。地域にいる外国人同士をつなげる拠点でもあります。まちなかから世界をつなげるインフラにもなります。ホストファミリーとして協力してくれる、沖縄の JICA、OIST（沖縄科学技術大学院大学）に勤める外国人は 3 年ぐらいで入れ替わり、帰国します。帰国後、国際交流の架け橋になっていただきたいです。現地の学校と沖縄の学校をつなげてもらう役を担っていただきたいです。世界中の人たちがいつでもどこでもつながる世の中を目指しています。

最後になりますが、HELLOW WORLD のミッションは「世界中に 1 か国ずつ友達がいることが当たり前の社会をつくる」ことです。

以上

All Rights Reserved, 戦略経営研究会